

## 第2回みなみ協議会 会議事録

日時：11月25日(月) 14:30-15:20 授業観察  
15:30-16:30 @会議室

司会：副校長 記録：研究開発G（小林）

### 出席者

島田 徳隆（NPO法人アンガージュマン・よこすか理事長）  
スコムスキー・久美子（横須賀国際交流協会事務局次長）  
小松 加代子（横浜fカレッジ専学校教務部部長）  
重野 美奈子（NPO法人ぼくのくれよん理事長）  
関島 忍（元久里浜中学校校長）  
<横須賀南高校>  
平校長 金井副校長 大石総括教諭 二瓶総括教諭 長網総括教諭 安齋教諭  
長島総括教諭 東原教諭 林総括教諭 小林教諭（記録）

計15名

### はじめに

- ・会長あいさつ（代理：島田様）

先生方も体調に注意して過ごしてほしい。生徒の体調なども気に掛けないといけないので大変だと思うが抱え込まないようにしてほしい。委員でもサポートできることをしていきたい。

- ・校長あいさつ

8月5日 ウェイトリフティング競技の全国大会が行われた。（柔道部女子選手が出場）

各学校説明会、学年交流習慣（1年：企業見学・上級学校の見学、3年：ディズニーランド）保護者面談、12月には期末試験が行われる。今後は入試や卒業式等、学校としては慌ただしい日が続く。

みなまな部について（別紙）の方向性について説明した。

### <授業観察感想について>

- ・福祉科の授業は落ち着いていた。授業も工夫されており、生徒の興味関心を引き出す内容となっていた。1年生の中では、集中している生徒の様子が見られたが、中には集中力を欠く生徒も見られた。
- ・プロジェクターを使う授業は、視覚的にも良いと思う。限られた範囲でどのようにホワイトボードを活用していくのか、見やすくする（拡大機能等）工夫も必要だと思う。クイズアプリなどの活用で生徒は楽しそうに取り組んでいた。資料の共有化などにより、教員によって教える内容に差が出ないのは良いと思う。
- ・授業中、居眠りをしてしまう生徒が見られた。授業規律も含めて、良いことは良い、悪いことは悪い、と指導すべきだと感じた。また、学習環境を整えるための整理整頓も心がけられると良いと思う。
- ・3年生の教室の先生のコメントを見て、心が熱くなった。年々、目が合った時に会釈してくれる生徒が増えてきた。外部の人にも挨拶ができるのは良いことだと思う。先生方の指導のお陰だと思った。将来を見据えてやっている生徒は集中できていると感じた。先生方がゆっくりわかりやすく話したり、知識をインプットするための授業が工夫されていた。
- ・集中力を欠く生徒が多く見られたのが心配だった。我々の見学でも生徒の注意がそれてしまうのではないかと心配になった。文化祭の感謝の掲示や、昇降口の横断幕をみて、生徒たちが文化祭を楽しんだという余韻を感じられた。各フロアや教室の掲示から先生が生徒に寄り添っている感じや、コミュニケーションの場としてとても良いと思った。卒業生の体験談などスマホ等で見られたらよいと思った。

### 協議内容

#### 1. 各グループ業務の取り組みについて（中間まとめ） 各GL

<教務>全学年が新カリキュラムに移行され、本校に合ったカリキュラム検討をはじめた。

<進路>就職が決まった生徒が増えるなか、進路に向けて動き出せていない生徒もいるのが今後の課題。6月保護者面談で最終確認が行われるのだが、その後の変更が多くある。生徒・家庭の意見の齟齬が見られる。次年度以降は保護者を含めた進路説明が必要か。家庭との連絡が課題となる。

<広報連携>学校説明会の参加人数は例年並みとなっている。教員全員で中学校を訪問して説明を行った。

＜総務＞業務は多岐にわたるが、おおむね良好に遂行できている。

＜生活指導＞メンタル的な課題を抱えている生徒が多くいるため、アプローチの仕方を変えながら指導している。生徒支援との連携が重要な鍵となる。

＜生徒支援＞生徒会は「生徒主体」ですすめている。支援については「早期把握」に力を入れて取り組んでいる。文化祭の来場者数は689名となった。生徒会の出し物では失敗を恐れず挑戦できていたと思う。

＜研究開発＞授業評価の「項目4」は本校独自の質問で、生徒からの評価が他の項目に比べて高く、「みなみスタイル」を意識した授業が実施できている。

## 2. 質疑応答・意見交換

- ・サポートドックの効果についてはどうか。負担はあると思うが効果的なのであれば継続する必要があると思う。➡サポートドックの利点は全数調査ができる点。専門機関に行かない生徒にも調査ができるため、ノーマークの生徒に対して新しい発見がある。教育相談につなげたほうがいい生徒は49%いた（回答率は82%）。

- ・資料が丁寧で分かりやすい。進路の数字が上がっている。地域連携では、周知されていない活動も多いので、より多くの活動について広報などに載せてほしい。

- ・「失敗を恐れずに自分でやらせる」というのは生徒のためになるので、引き続きやってほしい。教育相談の実態を受けて、相談体制が手厚くなるといい。

- ・先生方の負担が多いと感じた。もっと専門家を入れるなど、県教委が動いてくれると良いと思った。

- ・授業評価「項目4」が高いのは素晴らしい。項目6・7・8を高くするためには生徒の努力も必要。

- ・サポートドックなどの調査に対して県は必要な予算を確保してほしい。

- ・予算やカウンセラーなどは、県立高校に等しく配置するではなく、より支援が必要な学校について予算を多く割いてほしいと思う。サポートドックの結果を根拠にしつつ、県教委に要請すべきだと思う。

## 3. 各部会議事録

### 評価部会 議事録

メンバー：小松、二瓶、大石、大内（記録）

＜内容＞

- ・卒業生によるアンケート上で、学校満足度を図る質問や具体的に成長した学校活動等を記載させる項目も入れてみるのも良いと思う。

- ・進学先、就職先による学校評価アンケートの有無に関しては、検討の余地がある。

- ・グラフで表されるアンケート結果だと、結果を踏まえた改善点が出しにくい。

### 福祉部会 議事録

メンバー：重野、安齋、長網、富永（記録）

＜内容＞

- ・神奈川県では、高校の福祉科を資格取得に特化したカリキュラムへと再編することが急務である。

- ・女性が働きやすい社会の実現のため、資格取得は不可欠である。

- ・二俣川看護福祉高等学校の看護科廃止に伴い、福祉科への需要が高まることが予想されるため、生徒の資格取得を支援し、将来のキャリア形成をサポートする必要がある。

### クリエイティブ部会 議事録

メンバー：島田（部会長）関島、長島、東原、高橋（記録）

＜内容＞

○今年度の教育活動「みなみまな部」について

- ・生徒支援G、研究開発Gで検討する（学びなおしは地域ボランティア等で活動できるが、テスト対策は教員側になるので、今後さらに検討を要する）

- ・学びなおしについては、学校設定科目等を含め検討

○その他

- ・校外での見回り等について地域ボランティア等を含めた実施は難しい

- ・ルールを守れない生徒が多少いる ・ピアスについてのルールは必要か

- ・1年2組の教室環境の工夫（ベンチの設置）

- ・進路Gからの社会人講座